

◇分かち合いのテーマ◇

- *あなたが奉仕職を担おうとするとき、特に課題となるのはどんなことでしょうか？
前のページにあげられた①～④の項目とともに、共同体での奉仕において自分の苦手なところ、周りの人との関係で難しいと感じるところなどを振り返ってください。
- *日ごろの教会活動などの中で、キリストの本当の願いに合わないと思われる「世の中の一般的な常識や利害関係にとらわれた考え方」や「表面的な福音理解」が現れている、と感じるものとしてどのようなことがありますか？
- *信仰と生活の遊離を乗り越え、信仰がお仕着せや単なる義務ではなく支えや喜びとしていっそう力強いものとなるために、どのような取り組みや養成をすればよいと思いますか？ 思いつくものをいろいろとあげてみましょう。
- *人々への奉仕において現れてくるお互いの弱さや足りなさに気付くために、奉仕者相互、また教会共同体は、どのような支え合いができるでしょうか？
できそうなこと、すぐにはできなくてもできるようになればよいと思うこと、などをあげてみましょう。

☆聖書で祈る☆

ガラテヤ 6：1～9 「信仰に基づいた助け合い」

1:兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。2:互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです。3:実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるなら、その人は自分自身を欺いています。4:各自で、自分の行いを吟味してみなさい。そうすれば、自分に対してだけは誇れるとしても、他人に対しては誇ることができないでしょう。5:めいめいが、自分の重荷を担うべきです。6:御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。7:思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。8:自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。9:たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。

ルカ 14：16～24 『大宴会』のたとえ (本文省略)

ローマ 14：1～10 「兄弟を裁いてはならない」 (本文省略)

▽参考資料▽

使徒職教令 29 (養成の原理)

使徒職への養成は単に理論的な教育だけによってできるものではない。そのため信徒は養成の最初から、徐々に賢明に、すべてを信仰の光のもとに見、判断し、行動し、その活動を通して他の人々とともに自分を見がき、向上させ、こうして教会のための活発な奉仕に参加することを学ぶべきである。この養成は、人格の円熟、課題の発展につれて常に向上すべきもので、日を追ってその知識は深められ、適した活動が行なわれるべきである。これらすべての要求をみだすにあたっては、常に人格の一致、すなわち表裏のない円満な人格を養成することを念頭におかなければならない。このようにして人格の調和と均衡が保たれ、増進されるのである。